

科目名		視覚機能検査学講義			分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位
担当教員		◎教授 木田淳子						
課程	博士前期	配当年次	1年		配当学期	通年	授業方法	講義
授業の概要		視覚機能異常について神経学的方面から考察する。						
授業の到達目標		視覚の成り立ちには、眼球の光学系に始まり、網膜視細胞から視神経さらに大脳皮質視覚野までのさまざまニューロンが関与する。 ①大脳皮質における高次脳機能について、その基礎となる解剖学、生理学、神経学を説明できる。 ②感覚情報の総合作用として大脳における中枢処理機構、高次視覚野における感覚の受容、連合野における意思決定、神経学の調節機構としての脳幹の役割といった神経学と視覚機能とのかかわりを概説できる。						
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	1	木田 淳子	教 授		視覚系の構造について説明できる。			
	2	木田 淳子	教 授		視覚系の機能について説明できる。			
	3	木田 淳子	教 授		眼球の組織構造について説明できる。			
	4	木田 淳子	教 授		眼球の組織異常について説明できる。			
	5	木田 淳子	教 授		眼球の幾何学的計測値について説明できる。			
	6	木田 淳子	教 授		視覚情報処理過程について説明できる。			
	7	木田 淳子	教 授		視覚情報処理過程の異常について説明できる。			
	8	木田 淳子	教 授		大脳皮質と機能局在について説明できる。			
	9	木田 淳子	教 授		大脳皮質と機能局在の異常について説明できる。			
	10	木田 淳子	教 授		視覚伝導路について説明できる。			
	11	木田 淳子	教 授		視覚伝導路の異常について説明できる。			
	12	木田 淳子	教 授		屈折と屈折異常について説明できる。			
	13	木田 淳子	教 授		屈折矯正のさまざまな方法について説明できる。			
	14	木田 淳子	教 授		調節と調節異常について説明できる。			
	15	木田 淳子	教 授		講義の振り返りと習熟度確認			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおく。 回次の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておく。					
		【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、教科書等を利用し復習しておく。					
		【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書		丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子:「視能学」第2版文光堂						
参考書		柏井聡編:「臨床神経眼科学」第1版金原出版 David D;Visual Optics And Refraction,A Clinical Approach,3rd ed,Mosby,1985 山内昭雄訳:「ハインズ神経解剖学アトラス」第3版メディカル・サイエンス・インターナショナル						
成績評価の方法および基準		レポート50%、口頭試問50% 欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。						
その他履修上の注意事項		試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップDP1(視能矯正学の基盤となる学識を習得し実践することができる。)を参照し理解すること。						